

## 京王線車内傷害事件を受けた今後の対策について

2021年10月31日（日）19時56分頃に、京王線布田駅～国領駅間を走行中の車内で発生した傷害事件により、お怪我をされたお客様の一日も早いご快復を心よりお祈り申し上げます。当社では、今回の事件を受け、下記のとおり課題を抽出するとともに、課題への対応策を検討・実施してまいりますので、お知らせいたします。

### 記

#### 【課題抽出】

1. 車内や駅構内の非常時における早期状況把握について
2. 非常時における車内のお客様の速やかな避難誘導について
3. 非常用設備の認知度向上について
4. 同種事件の未然防止について

#### 【課題への対応策】

1. 早期の状況把握に向けた各種防犯カメラの設置
  - (1) 従来から進めてきた車内防犯カメラについて、リアルタイム伝送機能を持つ仕様に変更のうえ設置します。(2023年度末を目途に全車両への設置を完了予定)
  - (2) リアルタイム伝送機能を持つホーム上防犯カメラについて、全駅へ設置します。(2023年度末までに完了予定)
  - (3) 曲線ホーム等の一部の駅に設置している車掌が確認するモニターについて、終日カメラを稼働させます。(事件後に対応済)
2. お客様の速やかな避難誘導に向けた乗務員の取扱いの見直し
  - (1) 列車の走行中に、複数の車内非常通報装置が押され、かつ、内容が確認できない場合は、防護無線の発報等により他の列車の停止を図るとともに、車内のお客様に注意喚起放送を実施のうえ、最寄駅に停車することを基本とします。
  - (2) 非常時に最寄駅へ緊急停車した際、ホームドアと列車のドアがずれている場合においても、ホームドアと列車のドアの双方を開け、お客様を安全に避難誘導することを基本とします。
  - (3) 上記(1)・(2)の内容を全乗務員に周知する教育や訓練を実施します。(2021年12月以降順次実施)

### 3. 想定外の事象発生への対応力強化

- (1) マニュアルにはない異常事態や複合的なトラブルについて、乗務員・駅係員・技術員等の意見を基に事例を数多く設定し、事例に対する判断や具体的行動を訓練し、異常時対応力の強化を図っていきます。
- (2) 過去の事件事故や訓練・教育でも経験したことのない緊急事態においても、乗務員・駅係員・技術員等が自ら判断・行動できるよう、危機対応のスキルアップを図っていきます。

### 4. 非常用設備等の認知度向上の取組み

- (1) 非常用設備（車内非常通報装置、車両ドアロック、ホームドア非常開ボタン、ホームドア車両間扉）の設置場所について、ピクトグラムも活用した表示方法により視認性向上を図るとともに、取扱い方法に関して車内や駅構内でのモニター放映、駅貼りや車内の窓上ポスター等で掲示します。（2022年2月以降順次実施）
- (2) 非常用設備の操作体験会等の企画・実施により、お客様の認知度を向上させるほか、異常時のお客様による操作への協力を呼びかけます。

### 5. 未然防止に向けた取組み

- (1) 事件発生翌日の2021年11月1日から緊急対策として実施している駅構内の巡回強化や、有料座席指定列車「京王ライナー」・特急列車での警戒添乗については、継続して実施しています。
- (2) 非常事態の発生を想定した警察との合同での訓練等を引続き実施するなど、沿線の各警察署とのより一層の緊密な連携を図っていきます。
- (3) 危険物の持込みを防ぐため、車内への持込みが禁止されている物品について、改札口周辺などにポスターを掲出するなど、わかりやすい周知を図っていきます。
- (4) 警備強化に関するポスター掲出や放送を引続き実施します。
- (5) 上記1. 各種防犯カメラの設置を通じて、同種事件の抑止につなげます。
- (6) 上記安全対策の検討・実施、および、これまでに前例のない無差別テロ、傷害、放火等の事象への迅速な対応強化のため、2021年11月22日付で、鉄道事業本部安全推進部に「鉄道テロ・災害対策担当」を新設しました。（2021年11月25日ニュースリリース）

上記の課題への対応策を着実に実施していくことにより、テロ・暴漢への抑止力を向上させるとともに、万一の発生時に備えたお客様への被害回避・軽減の適応力を強化し、安心して当社線をご利用いただける環境づくりに引続き取り組んでまいります。お客様のご理解・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

以 上